

特別支援学校における掲示による活動補助に関する研究

Study on the Use of Notices and Posters in Assisting Student Activities in Special-Needs Schools

○大崎淳史*・平永裕理**・吉村 彰*・溝渕 匠* (*東京電機大学 **北陸ミサワホーム)

Atsushi OSAKI*, Yuri HIRAE**, Akira YOSHIMURA* and Takumi MIZOBUCHI*

* Tokyo Denki University, ** Hokuriku Misawa Homes Co., Ltd.

Abstract: The purpose of this study is to evaluate the use of notices and posters in assisting student activities at special-needs schools for the intellectually disabled. The floor area in and around the classrooms, the total area of the wall space, the total area allocated for the notices and posters as well as their contents and their locations were surveyed for 3 special-needs schools. As a result, we have found that 1) the total area allocated for the notices and posters per classroom was an average of approximately 9.3 square meters, 2) the notices and posters in assisting student activities can be classified into 4 types: for understandings, for works, for schedules and for communications, and also that 3) those notices and posters in each space seems to be able to help students learn things autonomously.

Key Words: Special-Needs School, Intellectually Disabled, Classroom, Notices and Posters

1. はじめに

特別支援学校では、掲示による児童生徒への活動補助が欠かせない。一方、教室まわりの掲示空間の計画は、明確な指標に乏しく、設計者の良識に任される状況がつづいている^{※1)} (Fig. 1)。そこで本研究では、特別支援学校における教室まわりの掲示空間について建築計画的知見を得るため、教室まわりの掲示空間利用の実態を把握し、分析を行う。

本報は、活動を補助する掲示物に焦点をあてて考察するものである。

2. 調査概要

調査対象には、千葉県立我孫子特別支援学校、千葉県立印旛特別支援学校、神奈川県立金沢養護学校の3校を選定した (Table 1)。我孫子特別支援学校、印旛特別支援学校は共に、設置後30年余り経つ学校で、知的障害児童生徒を主に受け入れる。金沢養護学校は、近年特別支援教育推進下で設置された学校で、知的障害児童生徒、肢体不自由児童生徒を受け入れる。校舎は3校とも、廊下を挟んで両側に教室が並ぶ中廊下式の空間構成となっている。

調査方法として、各校、小学部低中高学年各1学級、中学部1・2・3学年各1学級、計31学級における教室まわり (教室および廊下の当該教室が接続する部分) の床面積、壁面積 (窓・扉を含む)、掲示物の量 (縦横面積)・内容・配置・掲示手段および家具配置を実測し、分析を行った。調査期間は2011年6月～2011年11月である。

3. 調査結果

3-1 1学級当たりの教室まわりの総掲示量

1学級当たりの総掲示量は約9.3㎡だった。一般の小中学校に比べて少ないと考えられる^{※2) ※3)}。要因としては、①まず教室の規格が一般学校に比べて小さいことがあげられる。一般学校で片廊下式校舎の場合、教室および接続する廊下の床面積がおよそ85㎡、壁面積が140㎡なのに対し、対象校は3校とも (一部例外を除き) 床面積がおよそ70㎡、壁面積が100㎡となっている。②また、多くの教室で、洗面台が設けられていたり教室によっては隣室 (専用の便所等) につづく出入口があったりし、十分に掲示壁面が確保できないことがあげられる。③さらに、教室屋外側・廊下

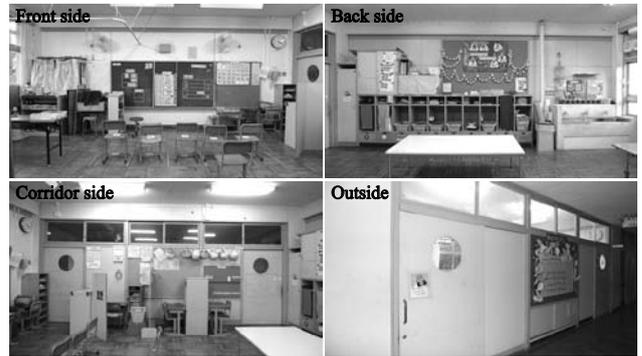


Fig. 1 Interior elevations in and around the classroom

Table 1 List of the special-needs schools surveyed

Cases	Site Area (m ²)	Total Floor Area (m ²)	Disabilities	School grades	Number of classrooms measured
Abiko Special-Needs School	17,177	5,401	Intellectually	Elementary	6/21
				Junior high	5/9
Inba Special-Needs School	15,999	6,953	Intellectually	Elementary	4/10
				Junior high	4/10
Kanazawa Special-Needs School	16,206	9,656	Intellectually	Elementary	4/10
				Junior high	3/7
			Physically	Elementary	3/3
				Junior high	2/2

側壁面に個別の机を設けているところでは、各々が落ち着いて課題に取り組めるよう目の前の壁面を「私的壁面」とし、余計な掲示は一切ないことがあげられる。

3-2 活動補助掲示物の類型

教室まわりには、児童生徒の活動を補助する特徴的な掲示物がみられた。補助目的で分けると、「認識補助」：モノの名前や時計の時分等、「作業補助」：作業の仕方を表した「手順表」等、「スケジュール補助」：「時間割表」や1日の活動表等、「コミュニケーション補助」：気持ちを伝えるカード等の4項目に分類できる^{※4)}。

Table 2は、1学級当たりの総掲示量および類型別掲示量を、学校・障害種・学部・普通学級/重複学級別に算出したものである。表から、「スケジュール補助」掲示量は、

小学部に比べて中学部の方が多い傾向が読み取れる。これは生徒の成長に伴い自立的な活動を促すためと考えられる。また、「コミュニケーション補助」掲示量は、普通学級に比べて重複学級の方が多い傾向が読み取れる。これは意思伝達の難しい児童生徒がカード等によってコミュニケーションをより円滑にとれるようにするためと考えられる。以上のように、学部や学級に応じ、教育的ニーズによって各類型別掲示量に違いが生じると考えられる。

Table 2 Number of notice and posters in assisting student activities per classroom

Cases	Disabilities	School grades	Regular class or multiple disabilities class	Number of notices and posters (m ²)	Number of notice and posters in assisting student activities (m ²)			
					for understandings	for works	for schedules	for communications
Abiko Special-Needs School	Intellectually	Elementary	Regular	10.043	0.000	0.942	0.965	0.043
			Multiple	10.551	0.000	1.006	1.337	0.195
		Junior high	Regular	11.691	0.127	1.182	1.906	0.000
			Multiple	7.738	0.067	1.710	1.354	0.005
Inba Special-Needs School	Intellectually	Elementary	Regular	11.155	0.299	2.260	1.433	0.068
			Multiple	8.687	0.000	0.583	0.745	1.531
		Junior high	Regular	13.484	0.003	0.967	2.202	0.034
			Multiple	10.199	0.000	0.125	0.651	0.000
Kanazawa Special-Needs School	Intellectually	Elementary	Regular	6.030	0.000	0.439	0.728	0.082
		Junior high	Regular	5.083	0.269	0.514	1.243	0.137
	Physically	Elementary	Regular	9.830	0.000	0.721	1.837	0.318
		Junior high	Regular	4.614	0.048	0.295	0.403	0.000
Average				9.257	0.077	0.963	1.341	0.144

3-3 活動補助掲示物の配置

Fig. 2 は、活動補助掲示が積極的に行われていた学級の、各スペースにおける活動補助掲示物の配置状況を介绍するものである。家具配置としては、教室前方に椅子が横一列に並べられ、後方に大きなテーブルが置かれ、屋外側、廊下側に個別の机がある。活動の内容によってスペースが使い分けられている。

- ① 1日の生活は「着替え」から始まる。それぞれの児童が決められた場所で着替える。着替えを入れる箱には、着替えの入れ方(作業補助)を示した掲示がある。
- ② 「朝の学習」では、個別の机で各々が課題に取り組む。活動に集中できるような目の前の壁面を「私的壁面」とし、余計な掲示は一切ない。
- ③ 「朝の会(帰りの会)」では、黒板の前で横一列に並ぶ。床と椅子には同じイラストが付され、マッチングを行う(合致させる)ことで自分の居場所を確かめる。黒板には1日の活動表(スケジュール補助)が貼りだされる。
- ④ 「生活単元学習」では、教室後方の大きなテーブルで集団をつくるなどして活動する。
- ⑤ 「清掃」では、ぞうきんがけを行う。ぞうきんがけの担当ラインを示した掲示(作業補助)がある。ぞうきんがけの際にのみ意味をもつ掲示である。

4. まとめ

以下に結論を述べる。

- 1) 特別支援学校の1学級当たりの総掲示量は、約9.3 m²だった。一般の小中学校に比べて少ないと考えられる。「私的壁面」の設定が1つの要因となっている。
- 2) 活動補助掲示物は、大きく「認識補助」「作業補助」「スケジュール補助」「コミュニケーション補助」に分類できる。
- 3) スペースごとに活動補助掲示物を効果的に用いることで、児童生徒は自立的に活動できると考えられる。

謝辞

本研究は、千葉県立我孫子特別支援学校、千葉県立印旛特別支援学校、神奈川県立金沢養護学校のご協力のもとに行われました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 文部科学省『特別支援学校施設整備指針』、2009.3
- 2) 大崎淳史・吉村彰・刈屋信宏「小学校における情報伝達手段としての掲示空間に関する研究」日本建築学会地域施設計画研究論文29, pp.115-122, 2011.7
- 3) 大崎淳史・吉村彰「中学校における情報伝達手段としての掲示空間に関する研究」日本建築学会地域施設計画研究論文30, pp.93-100, 2012.7
- 4) 佐々木正美『自閉症児のためのTEACCHハンドブック』学研、2008.4

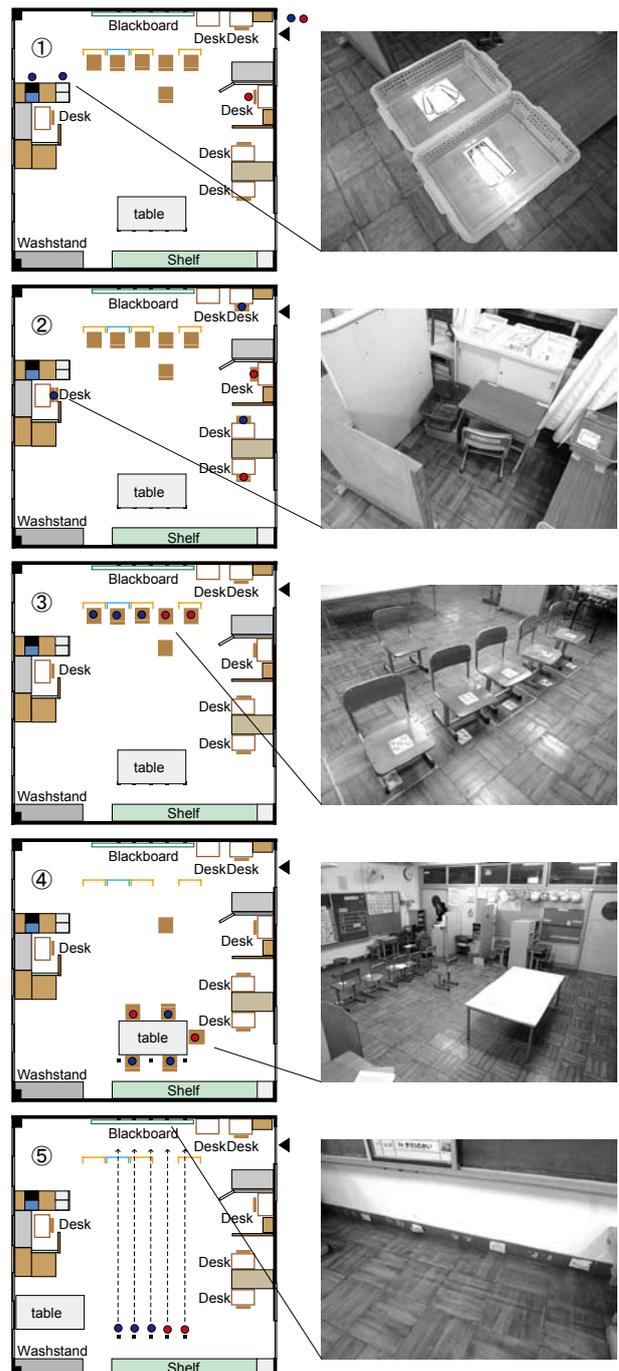


Fig. 2 Placement of notices and posters in assisting student activities at one of the classrooms surveyed